

2014/11/13

2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた
科学技術イノベーションの取組に関するタスクフォース（第 2 回）

為末構成員からのご意見

■ P J 1

- ・日本人は言葉によるコミュニケーションでの障害をより強く感じているので、翻訳への関心も高い。この条件を逆手にとって、翻訳技術で世界をリードすべき。その際にピクトグラム（デザインで情報を伝える）の取組も効果的。
- ・東京で最も困るのは渋滞や混雑。スマホの位置情報で人や車の混み具合を把握し周知することで、人を分散させる方法も考えてはどうか。来訪者だけでなく東京在住の方々にも便利なサービスとなる。
- ・海外からの来訪者は日本人と違う行動をとることも多い。プライバシーの問題にも配慮しつつ、ビッグデータで来訪者の動きを把握し、分析することで観光産業や新しいサービスの提供等に活かしていくことできる。

■ P J 2

- ・マイナンバー制を導入し、人の動きや滞在場所がわかると、感染症が出た際も感染経路や範囲等を素早く把握することで早期対策も可能となる。

■ P J 3

- ・超オリンピック（日本で人体に機械を付けた競技）の開催に技術を反映し、技術向上や普及を図ってはどうか。ただし技術者だけでなく、様々な知見を活用した運営が必要。
- ・障害者と健常者の間の方々（痛いけど動ける方など）にパラリンピックの技術が特に活かせると思われる。
- ・パラリンピアンのトレーニング過程にロボットスーツを取り入れてはどうか。他の選手の動作情報を習得し、ロボットに同期させて選手のフォーム改善等に応用する方法も考えられる。

■ P J 4、P J 5

- ・選手村と競技場の間だけでも次世代交通システムや水素バスなどを運行できると、海外からの選手等へのインパクトが大きい。会場内でエネルギー作り、会場内で活用できるとさらに日本らしい先進的な取組となる。

- ・選手村内は報道もされるので良いPRの場となる。選手村で使われるエネルギーがオープンになっていると面白い。

■ P J 6

- ・ポートやマラソン、トライアスロンなど、風速などの気象条件が競技の運営に大きくかかわる種目も多い。アプリ等で選手が直接情報を把握・活用できる取組も面白い。
- ・自転車競技では、風がエネルギー消費に大きな影響を及ぼし、隊列変更の作戦やエネルギー補給等にも応用できると思われる。
- ・この技術による気象情報をオープンにして誰にでも使えることにしておくことが必要。例えばパラリンピックの義足はその技術が世界中で誰でも使えるものであることが定義であり、ハードのみならずソフトでも同様の取組が必要。

■ P J 7

- ・ビッグデータ活用において、システムのセキュリティがますます重要。
- ・今後のソーシャルメディアにおいて、ネット上にあふれている情報からどういう危険が起きそうなことを予測する技術等により、サイバーテロ等の予測などセキュリティ対策に活用していくことも必要。
- ・「触れる地球」というデジタル地球儀は、地球儀上に色々な情報を出せる。例えば渡り鳥の群れとイワシの群れの動きを同時に示すと、その動きが連動していることがわかるなど、新しい情報の活用が見えてくる。世界中の人がオリンピックを見た感動を地球儀上で可視化できると面白いのではないか。
- ・電子チケットでETCのようなサービスを行えれば来訪者へのイメージも良い。セキュリティチェックにも活用できるのではないか。

■ P J 8

- ・過去に陸上で100m決勝前に照明落としてスポットライトで紹介などを行った事例があり、超臨場感技術は大会の演出に生かせると思われる。例えば選手の心拍数を図ってスタート前の鼓動が観客に伝わる仕組みなども面白い。
- ・競技場外に競技場内の情報を持ち出す際に、パブリックビューイング等を行うところに技術が生かせるのではないか。TV観戦とは違う世界を表現できる。

■ P J 9

- ・選手村に農園を作つてはどうか。選手村は選手の生活の場で、運営側は集中力を高めることに気を使い過ぎて無機質な空間となり、リラックスする場がない。シドニーで初めてカフェができたときは長蛇の列となったり、世界陸上では選手村の公園に選手が集まり、憩いの場となっていたこともある。日本なら農園や田んぼなどが面白いの

ではないか。

- ・選手の食事がどこで採れたのか情報があると安心・安全な日本の食のアピールにもなる。

■その他

- ・ベンチャーで出てきている技術を組み合わせることで面白い技術を発信できると思われる。

以 上